

一月のテーマ

両輪

いつでも 研究、 実践だ！

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のこぼれ話を掲載します。



え・城谷俊也

研究と聞いただけで、さむ気がすると言う。自分には向かない、むつかしい、誰かほかの人がやればよいこと……などと後込み（しりこみ）をしている。

だが待つてもらいたい。研究とは、そこにも、ここにも、どこにでも、あるはずである。朝の起きた。顔の洗いかた。歯のみがきかた。食事のしかた……。

研究とは、「よく調べ、考えて真理をきわめること」などと辞書に出ているが、なんでもよく調べ、やってみることで、平凡に、日常些事の中にもあると思えば直してみると、これはたいしたおもしろいことなのではなからうか。

「金もうけをしたければ、第一にムダ金を使わないことだ」と言った金持ちがいる。その人は朝、顔を洗うとき、水道の水をあまり使わない。ダラダラと流しっぱなしにせず、必要な分だけとり、栓をしめて、水の節約をする。一月では何十リットル分の水が浮くという。一年間の節約水道料金はどのくらいになるか。

チリもつもれば山となる！ それを彼は水の節約の面でも、研究し、実践している。

小さなこともよく調べて、節約の中でいかに能率をあげるかを実験するのが楽しみだという。彼は大会社の社長なのだが、こうして日々、すべてを研究しつづけて、あがった利益はポンと公共の教育費に投げ出して、大きく世の中に貢献している。

ほんとうの意味の富豪といわれる人々の生活は、意外なほど質素であり、いかにして金を活かして使うかなど、私生活にわたって、たえずいろいろと研究し、実践を積んでいるものだ。

*

「気がついたよいことは、すぐ実行せよ」とは誰でも知っているはずのことであるが、案外に実行できない。いや何かにつけて、分かっているつもりで居ても、実行できないことは、たくさんあるのである。

失敗したときに、冷静に研究してみるとよからう。気がついたそ

のとき、なぜ実行できなかったのか。ほかのことが気がかりだったのか。まあ、まあと甘くみていたのか。わけはいろいろあるだろうが、その中の一つをとらえてみる。家事に忙しく明け暮れている人も多い。ではその家事のやりかたを研究調査し、整理工夫をして、ますます能率的に処理できるようにする。これはおもしろいことではないか。

家事は大切なことだ。ある意味では、家族の生活を支えるもつとも重大なこと、基礎である。なぜなら、家のことがうまく運ばれていないと、生業に差支える。健康にもひびく。大きく言えば、家事がうまくできなければ、世界の平和建設などできないと思う。

毎日の洗濯、掃除——めんどうに思わない方法はないか。「こうやったら、昨日より今日はすこしうまくやれたよ」「さあ、どうやれば明日はなおうまくできる?」、ここにこそおもしろ味があるのでなかろうか。

『新世』昭和63年12月号「新世言」